

身延

戸栗川・砥石沢(上半部)

メンバー:三井(主、記録)、野澤
遊行日:10年10月31日

今年4月に野澤君と砥石沢に入った。

この沢は、丁度沢の中間辺りで沢を林道が横切っている。その林道に出た時お互いに、「今日はここまででいいか。」という気分になってしまい、そこで沢から上がって下山してしまった。ただ、さすがにそのままでは気分はよろしくない。沢仕舞いの前辺りに上半部をやろう、という約束はしていた。

で、本日がその日。前日台風が通過し、天気のこと心配やら増水のこと心配やらあったのだがまー、大丈夫だろう、という事で予定通り実施の運びとなった。

富士川沿いに身延に向かうが、川は台風通過のさいの雨の影響で茶色に濁って増水している。思ったより酷いが、それでも今日登る沢は支流の上流部なので、それ程の影響はないだろうと、目的地へ車を走らせる。前回中断したその林道の橋まで車であがり、そこからスタート。天気は予報に反して曇っていて怪しげ、台風一過の晴天とはいかないようだ。

堰堤を2本越えると二俣となっていて、右に入る。入ると直ぐにまた堰堤がある。

「登山大系」の古い、簡単な記録しか見当たらないので沢の詳細は判らず、堰堤続きの“スカ”じゃないかの思いが頭をよぎる。が、堰堤を越えるとゴルジュっぽくなり、斜瀑が落ちている。その先に5mの滝。続いて10mの滝が。瀑水の左が登れそうだが増水しているのだろう、かなりの水量で、濡れる事は避けられない。天気は予報と違い時折小雨がパラついたりで寒い。「濡れたくないね。」では巻くか、と辺りを見回してもルートは見出せない。巻くとすればゴルジュの入り口まで戻って大高巻きとなろう。となるとここは瀑水左をカッパを着て登るしかないか。

取り付くと思った程は濡れず、落ち口に上が

って野澤君にロープを下ろす。

滝上には20mの直瀑の滝。右岸に幅広のスタレ滝が落ちている。傾斜の傾斜で、中ほどまで登ってトラバースして20m滝の落ち口に抜けるのがよさそうだ。考えたルートでうまく20m滝を越えられた。滝が次々と現れ、楽しくなる。野澤君も同じく。

小滝を越えると二俣。左の奥には10m位だろうか、滝が見えているがここは右に入る。

小滝を越えると10mの滝。直ぐ左に並ぶようにルンゼ。それを登って滝上にあがる。

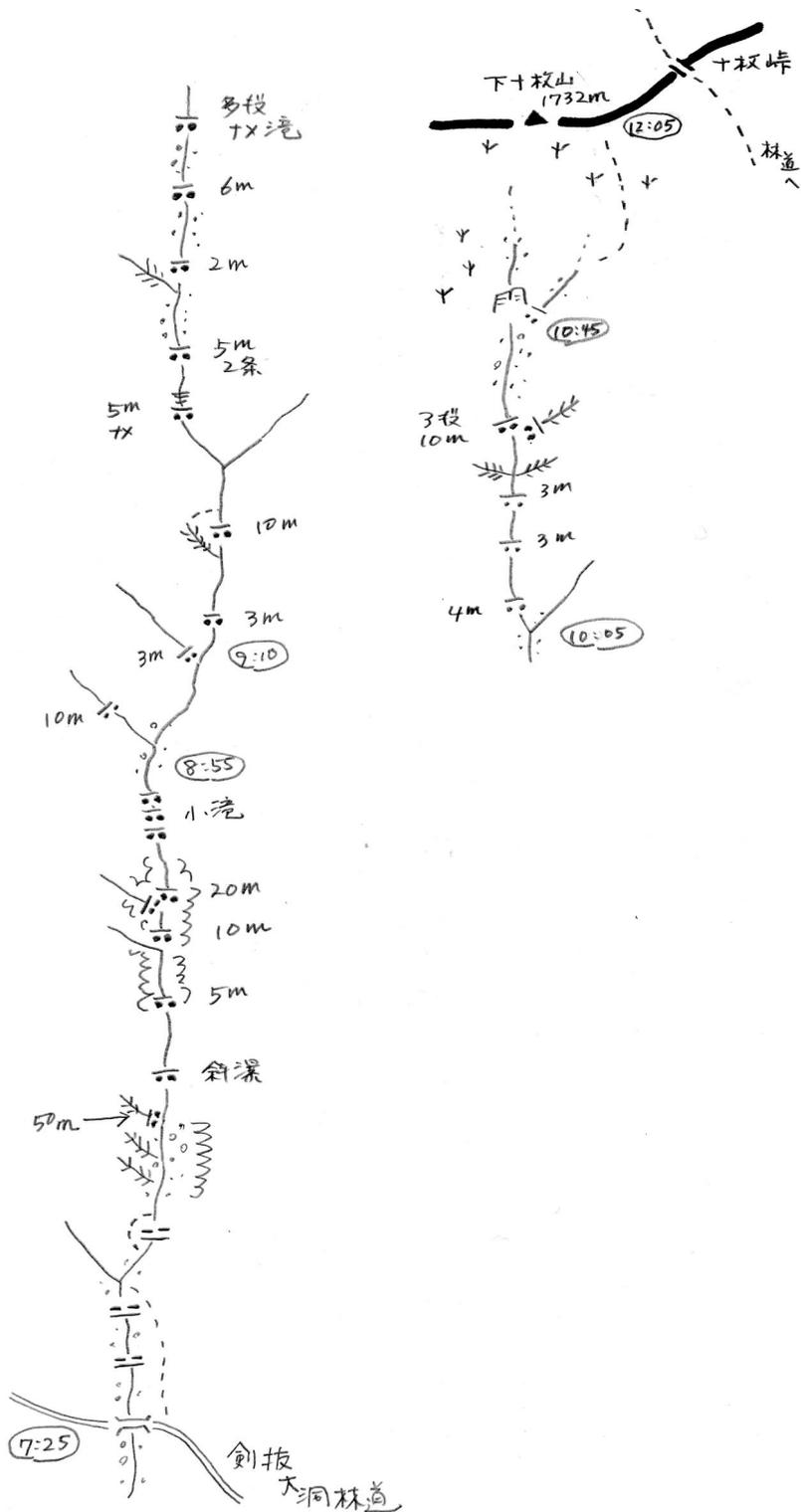
その上が二俣。長い沢ではないし、どちらに入っても大差はないと思うがなるべく面白

そうな感じの方へ入っていく。で、ここは左。5mのなめ滝、2条5mの滝と続く。更に多段のなめ滝があって沢を分ける枝沢が左岸から入る。また小滝が続き、3段10mの滝。野澤君はそのまま登っていったが僕は上段が濡れそう、上段は巻いた。その上はガシっぽくなり、源頭の雰囲気。ザレた沢を少し登ると正面は見るからに脆そうな垂壁、右には洩れ棚の小沢。ここまで来ればあとは早く稜線に上がる算段をした方がいい。右手の樹林の斜面に逃げて藪を漕いで稜線を目指す。

下藪が薄く、シカ道らしいものもあるのですが漕ぎといっても容易なものだ。1時間ほど頑張るとひょっこりと下十枚山のピーク近くの登山道にでて終了。ガチャを外すと、そのまま登山道を下って車に戻った。

今年の4月に稜線まで行けず(行かず?)、今回上半部を遊行して「砥石沢」の遊行を果たした。戸栗川の周辺の沢は、余り沢屋の姿を見ない山域だが、遊行してみると中々面白い沢が幾つかある。今回の「砥石沢」も中々拾い物の沢だったと思う。

無論、出会いから通って遊行するのが本来のあり方だが日帰りでは下山は多分、遅くなる。時間的に制約があるなら上半部の方が滝が連続していて面白いと思うので、今回のように林道から上部だけ遊行ということでもOKだろう。厚木からもそう遠くはないので、日帰りの沢としては悪くはないと思う。



1975年10月31日
 身延 宇栗川・碓石沢(上半部)